

## ～「まちの顔」の冬をバード・ハットが変える～

冬の鳥取は寒さが厳しく、人々は家で過ごすことが多いため、通行量が減り、集客が課題だった。このため、駅前のイベント広場（バード・ハット）にイルミネーションを施したオブジェを設置。12月は「トナカイとソリ」、年明け1月～2月は「因幡の白兎」をモチーフとした内容が話題となり、客足の鈍る2月もカップルやグループが訪れ、長期間賑わいを維持できた。

所在地：鳥取県鳥取市今町2-211  
TEL：0857-26-3330  
URL：<http://www.eki.or.jp/>  
組合員数：85名  
商店街の類型：広域型商店街

## 商店街の概要と事業を実施した背景

当商店街はJR鳥取駅に隣接し、市内唯一の百貨店と組合員店舗により、“人にも環境にもやさしい”、“なくてはならない商店街”を目指す一方、地域の少子高齢化が年々深刻化し、通行量の減少や空き店舗化が進んでいる。こうした中で平成25年7月、鳥取駅前に開閉式大屋根と芝生広場のある賑わい空間「バード・ハット」が完成。組合には、ここを使ったイベントの展開と集客が期待されている。しかし、屋外ゆえに冬はイベントの効果が薄いため、話題性のあるイルミネーションで「まちの顔＝若者が集まる場所」としてのイメージ定着を図った。

## 実施した事業の概要

### ①原寸大のトナカイとソリを使ったクリスマスイルミネーション

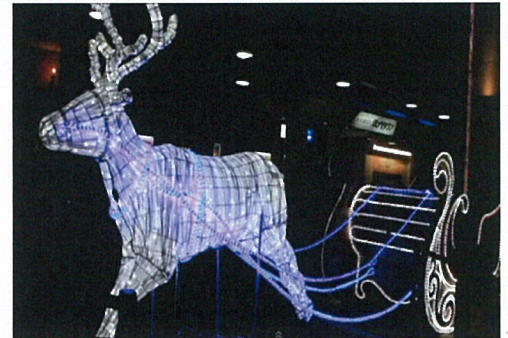
クリスマスシーズンの平成26年12月6日～25日まで、賑わい空間（バード・ハット）に原寸大のトナカイやソリを設置し、それをイルミネーションで飾り、幻想的な空間を創出した。ソリに乗って記念撮影ができるので、カップルやグループに人気の撮影スポットとなった。

### ②年明けは白兎と大黒様の「白兎伝説」イルミネーション

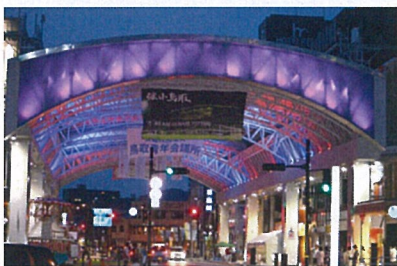
年明けの平成27年1月6日～2月28日までは、「白兎と大黒様」のイルミネーションに変え、子供から年配者まで、幅広い層を集客した。鳥取が舞台の神話に「因幡の白兎」がある。この神話に出てくる「サメ」に皮を剥がされた「ウサギ」と、ウサギが渡ってきた「隠岐の島」、ウサギを助けた「大国主命（大黒様）」を取上げ、小さなウサギの冒険と大黒様との運命の出会いを光の輝きで再現。それぞれのイルミネーションをまとったオブジェを物語風に設置した。

### ③イルミネーションをSNS投稿した方にドリンクサービス

イルミネーションを撮影し、SNSに投稿された方に、もれなく商店街の協力店（飲食店）でドリンクをサービスした。これにより、情報が拡散して話題性が高まり、より多くの人を集め、組合員店舗と商店街の認知度もさらに向上したと思われる。



## 成果と成功の要因



約3ヶ月にわたりイルミネーションを点灯したことで、例年は客足の鈍る寒い冬の時期にもかかわらず、賑わいを継続することができた。地域にゆかりのある物語を題材にしたストーリー性のあるイルミネーションを提供したことで、話題が生まれ、来街を促進できたと考えている。特に飲食店は、イルミネーションを目当てに来店する顧客で賑わい、売上の増加につながった。さらに、県外からの観光客や仕事で訪問された方からの反応も良好で、「まちの顔＝若者が集まる場所」のイメージの定着とともに、組合員店舗への波及効果も大きかった。

## 今後の取り組み

今回のイルミネーションで、商店街と組合員店舗の認知度が高まり、賑わい空間「バード・ハット」は幅広い客層が関心を向ける場となった。

組合は鳥取市から「バード・ハット」の運営を任されていることから、今回のイルミネーション事業のほか、他団体による支援事業も含めて多数のイベントを展開し、来街者に「バード・ハットに行けば何か楽しいことがある」と思ってもらえるようにしていく。これにより、商店街を「まちの顔＝若者が集まる場所」として、地域の賑わいの再生につなげたい。